

2008年の静岡県における花粉予報

宇佐神 篤（NPO 花粉情報協会,東海花粉症研究所,うさみクリニック） 山本恵理（東海花粉症研究所）

目的：2008年の静岡県におけるマスコミ報道スギ・ヒノキ科日別花粉予報と実測値の関係を2007年の成績に加えて検討する。

方法：2008年2月から3ヶ月間の新聞掲載日別予報と県下9地点における実測値から、両者の関係につき、結果としての的中した予報、多めとなった予報、少なめとなった予報に分けて調べた。調査し得た全期間と飛散数が2~4月間ではじめて10個以上になった日から最後に10個以上になった日までを飛散の10個以上期間とし、この二つの期間について検討した。空中花粉調査はDurham's samplerを用いて当研究所と静岡済生会病院以外は土曜、日曜、祝日の検体交換を原則として行わなかった。日別飛散予報は日本気象協会静岡営業所（以下営業所報）と同東京本部（以下本部報）による予報を採用した。

結果：

1. 全期間について

- 1) 検討日数は5施設が43~45日、2施設が56~57日、2施設が88日で、全9施設では508日となった。
- 2) 的中率は営業所報では44.2~62.2%(全体では53.0%)、本部報では46.5~61.4%(全体では52.2%)であった。50%を超えた地点は営業所報4地点、本部報5地点であった。
- 3) 多めの予報の割合は営業所報では14.0~44.6%(全体では31.1%)、本部報では15.8~44.6%(全体では31.7%)であった。
- 4) 少なめの予報の割合は営業所報では7.1~31.6%(全体では16.1%)、本部報では7.1~31.6%(全体では15.9%)であった。
- 5) 符号検定p値は営業所報では1.000、すなわち予報がほぼ的中したと判定し得たのは2地点のみで、 $p < 0.05$ すなわち有意に予報が外れていたのは全期間4地点であった。p値がその他、すなわち予報が有意に外れているとは言えないものの、的中しているとも言えないのは全期間で3地点あった。

2. 10個以上期間について

- 1) 検討日数は7施設が29~38日、2施設が59~60日、全9施設合わせると351日であった。
- 2) 的中率は営業所報では35.6~55.0%(全体では42.7%)、本部報では35.6~58.3%(全体では43.9%)であった。50%を超えた地点は営業所報、本部報とも1地点あった。
- 3) 多めの予報の割合は営業所報では8.6~50.0%(全体では33.0%)、本部報では8.6~50.0%(全体では33.6%)であった。
- 4) 少なめの予報の割合は営業所報では10.5~51.4%(全体では24.2%)、本部報では6.9~48.6%(全体では22.5%)であった。
- 5) 符号検定p値は営業所報では1.000、すなわち予報がほぼ的中したと判定し得たのは1地点のみで、 $p < 0.05$ すなわち有意に予報が外れていたのは全期間4地点であった。p値がその他、すなわち予報が有意に外れているとは言えないものの、的中しているとも言えないのは全期間で4地点あった。

3. 以上、的中率が50%を超える地点の数では前年より良い結果であった。しかし、予報がほぼ的中したと統計学的に裏付けられた地点は昨年より少なかった。また、多めの予報、少なめの予報の率は的中率同様に地点間の違いが大きかった。